



神田外語大学 ボランティアセンター報告書

KUIS Volunteer Center

2018 年度



神田外語大学



VOLUNTEER
CENTER

Contents

目次	1
神田外語大学ボランティアセンター	
・ 理念、特徴	2
・ ボランティアセンターの活動	3
・ ボランティアセンター運営委員会構成員	3
・ ボランティアセンター施設案内	3
年次報告第3号のご挨拶	4
スポーツ通訳・国際大会ボランティア	
・ スポーツ通訳・国際大会ボランティアとは	5
・ 主な実績	6
・ スポーツ通訳ボランティアを体験した卒業生からの声	7
・ 全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナー	8
・ スポーツ通訳ボランティア推進室による通訳ボランティアの取り組み	12
地域貢献・国際交流ボランティア	
・ 地域貢献・国際交流ボランティアとは	15
・ 主な実績	16
・ 第14回幕チャリ×ソラビト	17
・ 東日本大震災復興支援プロジェクト2011年度～2018年度の記録	19
・ 災害募金活動	25
・ 参加学生の声	26
国際協力・国際開発ボランティア	
・ 国際協力・国際開発ボランティアとは	27
・ CIEE海外ボランティアプログラム	28
・ 参加学生の声	29
・ ホノルルフェスティバル運営補助ボランティア	30
ボランティアセンター主催プログラム・イベント	
・ 大覚寺プログラム	31
・ ボランティアシンポジウム～平昌から東京へ～	32
・ Dee Dee Trotter氏講演会	33
・ JICAボランティアセミナー	34
・ ボランティア参加証授与式	35
・ 学生生活で役に立つ！講座特集	36
・ KUIS×JR東日本特別講演会	37
ロゴマークの一般募集及び決定	38
2018年度ボランティア実績一覧	39
学内ボランティア団体の紹介	42
Volunteer Union	43
ボランティア情報の発信	44
協力・関連団体	45

神田外語大学ボランティアセンター

理念

神田外語大学ボランティアセンター（以下を「ボランティアセンター」という。）のボランティア教育支援とは、ボランティアを提供する側の一方的な奉仕活動（サービス）だけでなく、奉仕活動を通してそれを受ける側から、また活動自体を学ぶ（ラーニング）双方向的要素を含んでいます。ボランティアセンターは、学生に対し、ボランティア体験を通じて、国際社会並びに地域社会が抱えている様々な問題やニーズを発見・共有しながら、自ら考え行動する力を養い、学生の自立を促進し、成長する機会を増やします。ボランティアセンターは、ボランティア活動の中から学生が社会に出て必要な能力

1. 自立・主体的な行動力
2. 社会性、幅広い知識・教養
3. 大学で学んだ知識を現場で活かす実践力

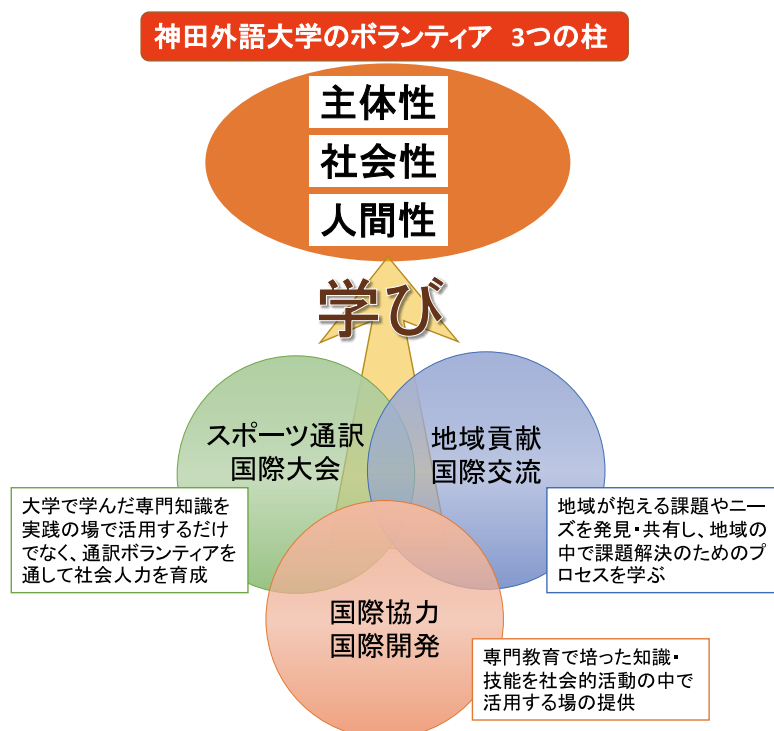
の向上を目指し、様々なボランティア活動に対する育成・支援を行っています。

特徴

神田外語大学のボランティアは3つの柱に分類されます。

1. スポーツ通訳・国際大会
2. 地域貢献・国際交流
3. 国際協力・国際開発

大学で培った専門的な知識や技能を学外で活かす場を提供することで、学生の学習意欲向上を図ります。また、ボランティア活動を通して学生の主体性、社会性、人間性を育みます。



ボランティアセンターの活動

1. 神田外語大学の建学の理念『言葉は世界をつなぐ平和の礎』に基づくボランティア精神の育成と普及
2. ボランティア活動を通じての人材育成と社会貢献
3. 学内外のボランティア情報の紹介とその活動支援
4. ボランティア活動の記録とその広報活動支援
5. 学内ボランティア団体の活動支援

ボランティアセンター運営委員会構成員（当時）

No	所属	氏名
1	ボランティアセンター長	柳沼孝一郎
2	学生委員長	布川 雅英
3	教務委員長	石居 康男
4	教職課程委員長	武田 明典
5	国際コミュニケーション学科	和田 純
6	イベロアメリカ言語学科	高木 耕
7	イベロアメリカ言語学科	松井 健吾
8	体育・スポーツセンター長	市瀬 良行
9	スポーツ通訳ボランティア推進室長	朴 ジョンヨン
10	事務局長	菅野 文博

No	所属	氏名
11	広報部	寺田 誠
12	教務課	平原 三生
13	国際交流課	柳田 知美
14	教務部・ボランティアセンター	羽鳥 岳裕
15	教務部・ボランティアセンター	久保 光輝
16	ボランティアセンター	篠村 勉
17	ボランティアセンター	實山あゆみ
18	ボランティアセンター	吉原 聡
19	ボランティアセンター	松橋 亜矢

ボランティアセンター施設案内（6号館2階）



▲ボランティアセンター事務室



▲ボランティア活動エリア①



▲ボランティア活動エリア②



▲ボランティア情報ラック



▲ボランティア募集掲示板

年次報告第3号のご挨拶

**「世界を学ぶ」神田外語大学から、ボランティア活動を通して、
心の和を紡ぎ
絆の輪を繋ぎ
日本と国際社会へ発信する！**

神田外語大学ボランティアセンター長
副学長・国際コミュニケーション学科教授（当時）

柳 沼 孝 一 郎



浜風薫る5月、幕張新都心の風物詩「幕張チャリティ・フリーマーケット」と「国際フェスタCHIBA」の開催で2018年も幕が開けました。6月には全国外大連合主催の「ラグビーワールドカップ2019国際交流入門講座」共同記者会見が神田外語学院で開催され、これを機に、7月から8月にかけて全国12会場で各地の高校生を対象に講座が開講されました。例年になく猛暑のなか、8月2日から千葉県内で開催された「第16回世界女子ソフトボール選手権大会」には本学から40余名の通訳ボランティアが参加、大会運営に大いに貢献しました。さらにはMAKE SMILEの絶大なる協力の下に宮城県亘理町において恒例の「東日本大震災復興教育ボランティア」が実施され、同時に千葉市との「産学官地域連携協定」に本学も参加、残暑厳しき8月下旬の「サマーソニック前夜祭」と「駅・幕張の浜周辺早朝クリーン運動」に爽快な汗を流し、全国外大連合主催の第6回「通訳ボランティア育成セミナー」が本学を会場に開催されて全国から多くの外大生が参加しました。秋の気配が感じられる9月下旬には「フィエスタ・メヒカーナinお台場2018」に多数の本学ボランティア学生・教職員が参加、運営に携わりました。幕張地区が秋一色につつまれる10月、「幕張南小学校ニュージーランド交流会」では本学学生が小学生の国際交流のために裏方として活躍、日本人とニュージーランドの小学児童の皆さんとともに遊びを分かち合いました。そして、10月下旬には「浜風祭：世界一周KUIS旅行」が開催され、卒業生の皆さんと至福のひと時を共有しました。

第30期生を迎える2016年に「年次報告書」が創刊されてから早や3年、本年2018年度も多岐にわたるボランティア活動が国内外において展開され、平和と共存の願いを胸に、本学の多くの学生が活躍するその雄姿に深い感動を覚えます。それぞれに参加、活動した学生、教職員の皆さん一人ひとりの心の内に残された思いを継承しなければなりません。本学の建学の理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を旨とし、真の国際人たらしめとして、日々、研鑽を積む神田外大生の崇高な想いと行動力、そしてKUISスピリットとサクラモリ（桜守）プロジェクトの慈愛の心をもって、ボランティア活動を通して、人と人の和を紡ぎ、絆の輪を繋ぎ、「世界を学ぶ」神田外語大学から日本へ、そして国際社会へ発信してゆくことを切に願ってやみません。

スポーツ通訳・国際大会ボランティア

スポーツ通訳・国際大会ボランティアとは

本学の建学理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の下、国際的なスポーツイベントに携わる機会を学生に提供することで、その実践の場において言語の運用能力や社会性を育み、そして人間性を高め国際社会に貢献できる人財を育成すること、それが神田外語大学スポーツ通訳ボランティア推進室が目指す活動です。



「スポーツと 言語コミュニケーション教育から グローバル人財育成」

体育・スポーツセンター 講師（当時）
スポーツ通訳ボランティア推進室 室長
全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成コーディネーター

朴 ジョンヨン



オリンピック・パラリンピックやワールドカップで代表されるように、スポーツの国際化・グローバル化は急速に進行しています。スポーツは国籍を問わず、言語・人種・宗教を乗り越え、世界の人々に喜びと感動、そして勇気を与える力を持っています。その意味ではスポーツは世界をつなぐ平和の共通語であり、優れたコミュニケーションツールでもあります。

神田外語大学からは毎年、国内外で開催される国際スポーツ大会・イベントに多くの学生を通訳ボランティアとして送り出しています。参加した学生からは「学んでいる言語以外に、ほかの言語を学びたいという意欲がわいた」、「外国人選手と接し、異文化理解力が深められた」など活動の充実さが窺えます。この経験を通じ、客観的な自己の言語能力に気づき、外国語学習へのモチベーションアップに繋ぎ、グローバル社会で活躍することを願ってやみません。

主な実績

◆ 主な業務内容

スポーツ通訳ボランティアの業務は、各イベントによって異なりますが、主に大会運営業務、海外選手団サポート、大会期間中の各国選手のアテンダント、式典・会議での通訳など、様々な場面でイベント運営に携わっています。



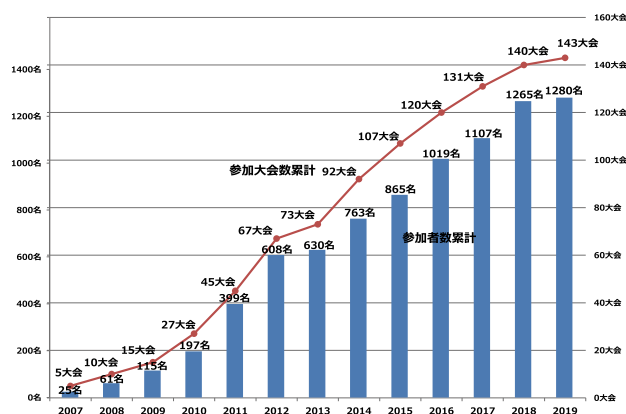
◆ 近年の参加実績及び主な大会名

- ・第22回ソチオリンピック冬季競技大会（2014）
- ・高円宮杯 フェンシングワールドカップ（2014～）
- ・第3回WBSC いわき U-15 野球大会（2016）
- ・ジェフユナイテッド市原・千葉 選手通訳（2016～）
- ・文部科学省 スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（2016）
- ・2017 冬季アジア札幌大会（2017）
- ・世界少年野球大会 千葉大会（2015）、横浜大会（2017）
- ・第10回アジアエアガン選手権大会（2017）
- ・2018平昌冬季オリンピック（2018）
- ・WDSF世界ユースブレイキン選手権（2018）
- ・第15回ジュニア合気道記念大会（2019）
- ・B.League U15 Challenge Cup(2019)

◆ 言語別総計

英語	韓国語	中国語	スペイン語	ポルトガル語	ロシア語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語	タガログ語
885名	174名	114名	65名	21名	6名	3名	3名	4名	1名

◆ 年別実績推移

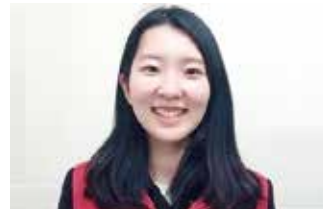


スポーツ通訳ボランティアを体験した卒業生からの声

国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 2019年卒業 眞壁 ひとみ（大手鉄道会社勤務）

【参加した大会】

- 2016-2018年 JR東日本東京駅外国語案内
- 2017年 札幌冬季アジア大会
- 2017年 高円宮杯フェンシングワールドカップ
- 2018年 平昌冬季オリンピック



英語や韓国語を通して経験したことや、多くの人に出会えたことは、どんなものにも変えられないかけがえのないものです。札幌冬季では韓国団の専属通訳として活動しましたが、思うように通訳できなかったりと悔しい思いを沢山しました。しかしその時があったからこそ、平昌オリンピックでの通訳という新たな目標ができました。

活動での経験は、全て今の自分に繋がっています。通訳という新たな世界に挑戦することは、すごく勇気のいることでしたが、最初の一步を踏み出したことで、語学力が上がっただけでなく、私自身大きく変わることができました。初めから上手くできる人はいません。自分で自分の限界を決めず、沢山のことに挑戦してみてください。

アジア言語学科 韓国語専攻 2018年卒業 長尾 滉（大手航空会社関連企業勤務）

【参加した大会】

- 2017年 BFA U-15 野球アジア大会／韓国代表チーム帯同通訳
- 2017年 高円宮杯 フェンシングワールドカップ
- 2018年 平昌冬季オリンピック



私は、学生の間に学んだ全てを発揮する、“学生最後の集大成”という位置づけで平昌冬季オリンピックのボランティアに臨みました。カンヌのスピードスケート会場で観客案内業務を担当し、世界中のお客様とスポーツを通じて感動や情熱を共有することができ、多くの方々と接する機会に恵まれました。オリンピックという世界が注目する舞台の裏側で五輪運営の一員になれたことや、個人的に「もうひとつの日本代表」というテーマを掲げ、日本人チーム全員で大会の成功に貢献できたことはとても誇りに感じています。

通訳ボランティアへの参加を考えている方々へお伝えしたいのは、多くの経験を積むことは非常に重要であり、自らの経験に勝る教科書は無いということ、多くの人と関わり多くのものを吸収し、自分の幅を広げることで自分の将来も広がるということ、そして現場こそが最も自分を成長させてくれる場所だということです。

勇気をもって前へ踏み出してみてください！

国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 2018年卒業 山下 奈都子（大手航空会社勤務）

【参加した大会】

- 2015年 幕張チャレンジトライアスロン
- 2016年 ウィルチェアラグビー世界大会
- 2016年 卓球ジャパンオープン2016
- 2018年 平昌冬季オリンピック



3年間のKUIS生活で15の国内外ボランティア活動に参加しました。卒業前の集大成として平昌オリンピックに通訳ボランティアとして参加できたことは、自信と誇りに繋がりました。ボランティア活動における、私の最終目標は2020年東京オリンピックを通して、「多くの海外のお客様に日本の良さを体験してもらい、より日本を好きになってもらうこと」です。そのための大事なポイントは「人」です。国の印象はその国の人柄で決まると 생각합니다。日本人のおもてなしの心をより大切にしたいと思っています。

ボランティアは、自分の語学力を活かす場だけでなく、多種多様な人との出会いの場でもあります。普段は関わるることのない大会関係者の方、地域のボランティアの方、他大学の学生など、様々なことに興味を持った意欲的な方々と出会うことができます。

ボランティアに参加する人は、イキイキとしている人が多いと感じます。自分の力を試し、人のために活動し、多くの人と関わるができる通訳ボランティアに、ぜひたくさんチャレンジしてほしいです。

全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナー ～世界スポーツ・国際イベントに向けて～

概要

2015年～2018年までの開催状況：

回	開催日程	開催場所	参加者数
第1回	2015年8月24日(月)～27日(水)	神田外語大学	236名
第2回	2016年2月9日(火)～12日(金)	神田外語大学	197名
第3回	2016年9月6日(火)～9日(金)	神田外語大学	367名
第4回	2017年2月15日(水)～18日(土)	京都外国語大学	178名
第5回	2017年9月5日(火)～8日(金)	神田外語大学	356名
第6回	2018年8月29日(水)～31日(金)	神田外語大学	424名

受講対象：

関西外国語大学、神田外語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、東京外国語大学、長崎外国語大学、名古屋外国語大学

後援機関：

東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部（第5、6回）
文部科学省（第1～6回） 外務省（第1～6回） 観光庁（第1～3、5、6回） 東京都（第5、6回）
千葉県（第1～3、5、6回）
京都府（第4回） 京都市（第4回） 京都府教育委員会（第4回） 京都市教育委員会（第4回）
2017札幌アジア冬季大会組織委員会（第1～3回）
2018平昌（ピョンチャン）オリンピック・パラリンピック大会組織委員会（第3、5回）
公益財団法人 ラグビーワールドカップ2019組織委員会（第1～6回）
一般社団法人 関西ワールドマスタースゲームズ2021組織委員会（第3、4回）
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会（第1～6回）
NPO法人 日本オリンピック・アカデミー（第1～3、5、6回）
一般社団法人 全国外国語教育振興協会（第1～3、5、6回）

協力機関：

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（第1～6回）
一般社団法人 ホスピタリティ機構（第1～3、5、6回）

全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナーについて

グローバル社会が急速に進行している中、真のグローバル人材に求められるのは語学力だけでなく、世界に通用する人間力です。つまり、自ら主体的に考え、責任を持って行動することが重要です。

このセミナーは人間としてのキャパシティを広げるための学び、リベラルアーツ（教養教育）を身につけるために役立つカリキュラムになっています。

内容としてはスポーツ・文化を始め日本・異文化理解そして、ホスピタリティマインド、通訳技法・スキル等幅広い知識・技能を学ぶことができます。

全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナーの開催報告（第1回～第6回）

神田外語大学では、2007年4月～2018年12月まで国際スポーツ大会140回において、1,265名の学生をスポーツ通訳ボランティアとして送り出してきました。オリンピックやワールドカップで代表されるように、スポーツの国際化、グローバル化が急速に進行している中、大会の円滑な運営には言語・コミュニケーションの分野が大きな課題とされ、外国語が使えるボランティアの存在は必要不可欠になってきています。この活動は体育・スポーツがもたらす社会・教育的な機能及び効果を検証すると同時に、語学・コミュニケーション力などグローバル人材育成に寄与する貴重な実践の場を提供するものです。

これまでの実績と成果のもと、2014年11月に開催された全国外大学長会議（場所：京都外国語大学）で、全国7つの外語大が連携し、通訳ボランティア育成を進めていくことが決定しました。それに伴い2015年8月に第1回目となる「全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナー」を神田外語大学にて開催しました。

2018年8月29日（水）～31日（金）に神田外語大学において行われた第6回通訳ボランティア育成セミナーでは、424名の学生が参加しました。

セミナー初日には、スポーツ文化や国際スポーツ界の現状、スポーツを通じたグローバル人材やテクノロジーまで幅広いスポーツ教養・教育について講義が行われました。また、2019年に開催されるラグビーワールドカップについて、ラグビーワールドカップ2019 組織委員会事務総長特別補佐の徳増浩司氏が登壇され、チームスポーツの素晴らしさや大会を取り巻くボランティアの重要性について話されました。

2日目は、平昌冬季オリンピックボランティア経験学生の発表を通じた国際スポーツボランティア理解や、プロのマナー講師によるホスピタリティマインド、アドベンチャー・コミュニケーション・プログラム（ACP）、リーダーシップに関するワークショップなど、学生たちは、通訳ボランティアに求められる語学以外のスキルを磨きました。国際スポーツボランティアについての講義を受けた学生は、「人生の中で数多くの経験をする事で新しい想像力への1歩になり、自分自身をCHANGEする為にも新しい経験をするのが大切。」と改めて気付きを得られたと語りました。

3日目には、筑波大学教授山口香氏によるオリンピック精神を通じたアスリートと人間力について学び、実践的な通訳技法や異文化理解の講義も行われ、充実した3日間の研修となりました。

今後、このセミナーで学んだ知識・スキルが外国語を学ぶ学生たちの役に立ち、スポーツを通じて世界の平和に貢献できるグローバル人材が多く輩出できることを心から願っています。



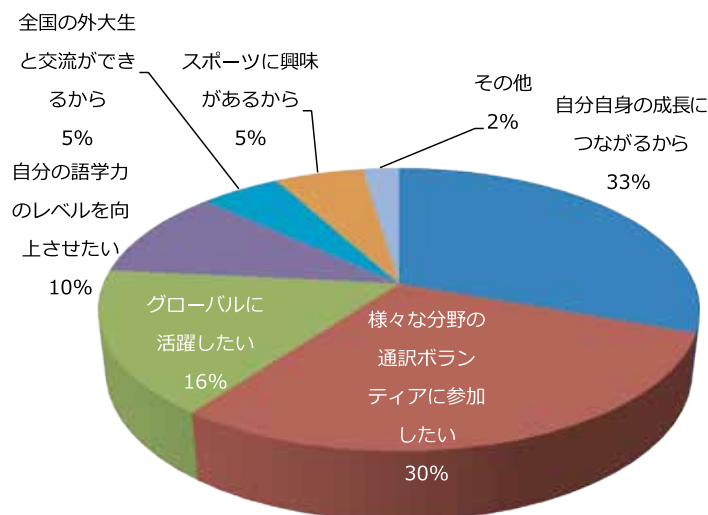
資料1 大学別の受講者数（第1回～第6回）

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	各大学 総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	24	184
神田外語大学	119	120	220	17	221	324	1,021
京都外国語大学	27	21	54	60	55	24	241
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	3	29
東京外国語大学	6	1	0	0	4	0	11
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	26	122
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	23	150
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	424	1,758
受講者数推移（延べ数）	236	433	800	978	1,334	1,758	

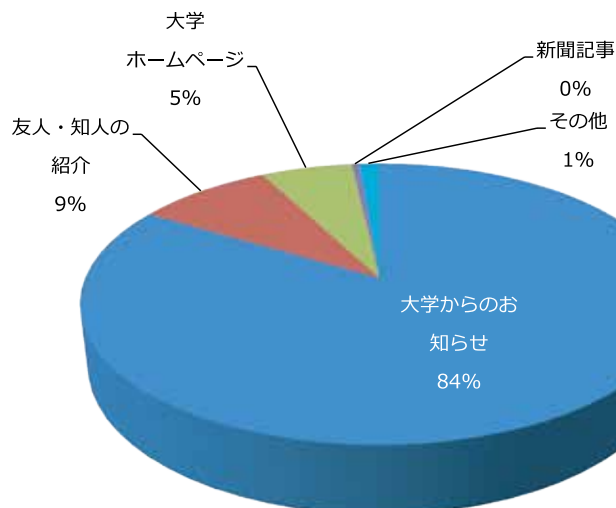
資料2 参加動機（第1回～第6回）

2-1 参加目的

※第1～6回通訳ボランティア育成セミナー参加者の回答を集計



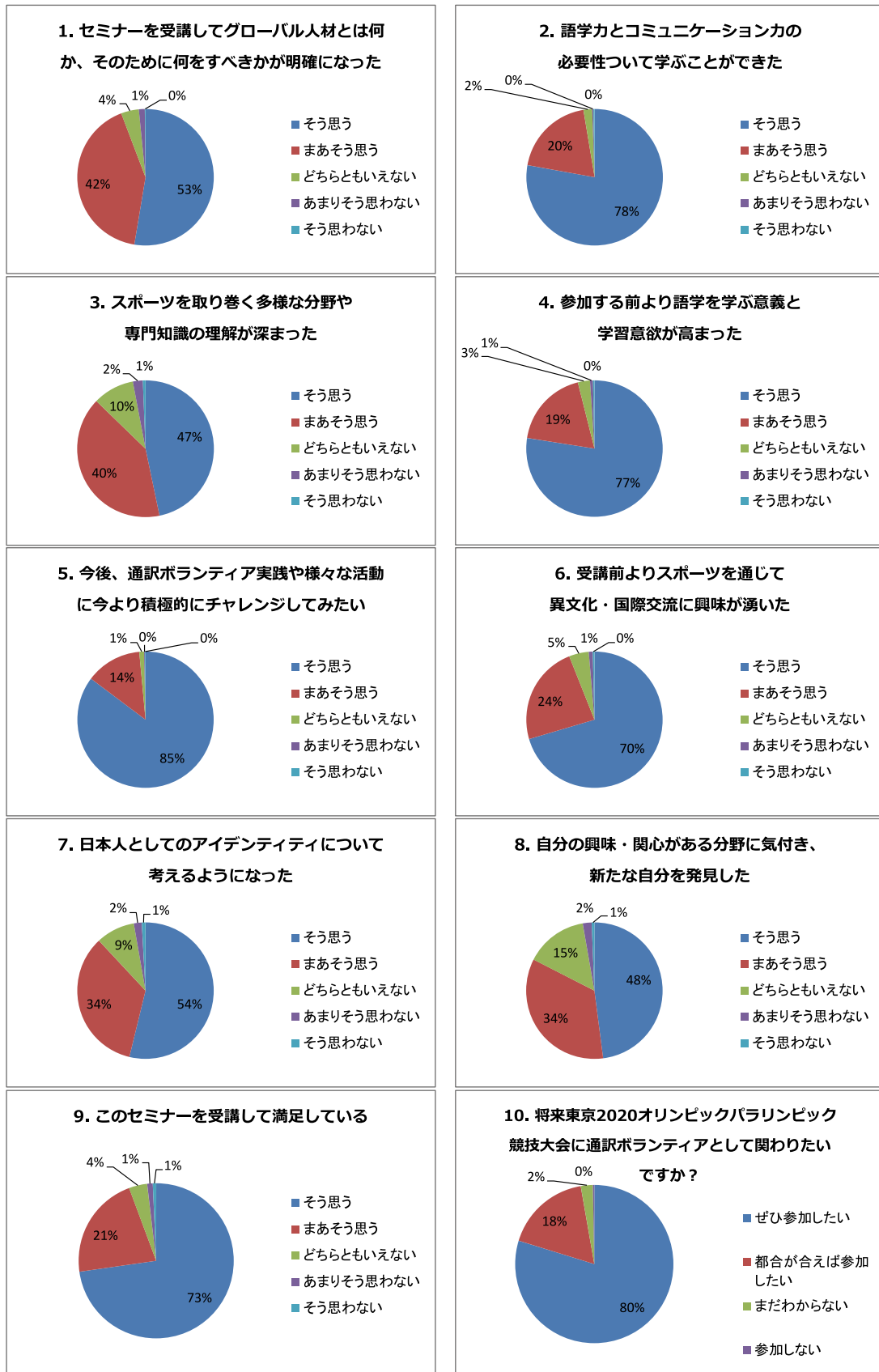
2-2 参加へのきっかけ



回答者数：1,710人

資料3 参加後の自己評価（第1回～第6回）

※第1～6回通訳ボランティア育成セミナー参加者の回答を集計



回答者数：1,710人

スポーツ通訳ボランティア推進室による 通訳ボランティアの取り組み

◆国際スポーツボランティア人財育成プログラム(2018年6月、9月(各2日間))

筑波大学と神田外語大学の共催プログラムとして、2018年6月10日(日)、17日(日)の2日間、及び、2018年9月23日(日)、30日(日)の2日間ずつ、それぞれ筑波大学もしくは神田外語学院を会場に実施しました。

このプログラムでは、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会におけるボランティアとして活躍するために教養・知識を身につけ、障害のある人へのサポート方法などを実技を通して学ぶことを目的としています。

プログラムには、様々な大学より65名の学生がそれぞれの回に参加しました。

どちらの回も、オリンピック・パラリンピックの歴史と教育をはじめ、国際スポーツ大会におけるボランティアの意義と役割やグローバルマナーと異文化コミュニケーション等の座学中心の講義、及び、語学や通訳に関するワークショップ、アドベンチャー・コミュニケーション・プログラムやボッチャ体験、視覚障がい者ガイド等の実技中心の講座が2日間に凝縮され、共催大学の強みを活かした内容で行われました。

受講者からは普段の大学の授業ではなかなか学べないことを学ぶことができ、オリンピックやパラリンピックの知識が深まったり、実際のボランティア活動のイメージを膨らませることができ、大変有意義で充実した内容だったという声が聞かれました。

全日程2日間受講した受講者へは修了証が授与され、6月の開催では59名、9月の開催では49名の学生がプログラムを修了しました。



主催(共催): 筑波大学 オリンピック・パラリンピック総合推進室、
神田外語大学 スポーツ通訳ボランティア推進室

日 程: 2018年6月10日(日)、17日(日) / 9月23日(日)、30日(日)

参加者数(6月開催) 65名

・お茶の水女子大学1名 ・神田外語学院5名 ・神田外語大学44名
・順天堂大学3名 ・筑波大学11名 ・東京大学1名

参加者数(9月開催) 65名

・神田外語学院4名 ・神田外語大学52名 ・成蹊大学9名

※学校名五十音順



▲講義風景(筑波大学)



▲講義風景(神田外語学院)



▲集合写真

◆ 7大学連携スポーツリベラルアーツ講座（2018年11月）

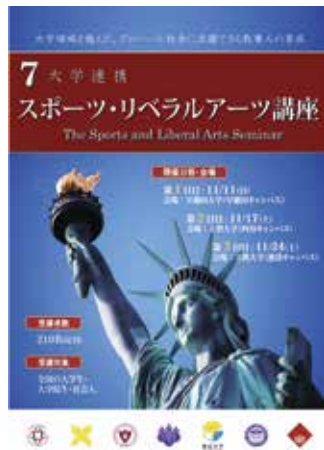
2018年11月11日(日)、17日(土)、24日(土)の3回、スポーツを軸に社会・人文・自然科学分野の幅広い教養を高める機会の創出を目的に、「7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座～スポーツを通じた社会貢献～」が開催されました。

(※7大学：神田外語大学、慶應義塾大学、上智大学、筑波大学、東京大学、立教大学、早稲田大学)

本講座では、オリンピックやパラリンピック、スポーツやその関連分野に興味関心のある学生を対象に、「東京2020大会の意義と21世紀の教養・教育」「スポーツとグローバル社会・共生社会」「21世紀におけるスポーツの多様性」という3つのテーマで講座を開講。7大学の特色を生かしたコンテンツで、グローバル社会に活躍できる教養人の育成を目指しプログラムを展開しました。

全国各地から学生や社会人の方々合計56名が参加し、各大学の講師や専門家、現役アスリートの講座を受けました。

本学講師は早稲田大学にて実施された1日目の11月11日(日)に、矢頭教授、朴講師、吉原職員の3名が登壇しました。



主 催：7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座実行委員会

(神田外語大学、慶應義塾大学、上智大学、筑波大学、東京大学、立教大学、早稲田大学)

日 程：〈1日目〉2018年11月11日(日)10:00～19:30 (早稲田大学)

〈2日目〉2018年11月17日(土)10:00～17:00 (上智大学)

〈3日目〉2018年11月24日(土)10:00～17:00 (立教大学)

参加者数：56名

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| ・青山学院大学1名 | ・お茶の水女子大学1名 | ・神田外語学院1名 |
| ・神田外語大学18名 | ・慶應義塾大学4名 | ・上智大学13名 |
| ・千葉大学1名 | ・筑波大学3名 | ・立教大学7名 |
| ・早稲田大学3名 | ・社会人4名 | |

※学校名五十音順

■国際コミュニケーション学科1年(当時) 佐藤 仁美さん

様々な大学の講師の方の話を一度に聞くことができただけでなく、他大学の学生と交流する機会もありとても有意義な講義になりました。

今まで疑問に思っていなかったことが、他の考え方もあることが分かり興味深かったです。



▲講義風景その1



▲講義風景その2



▲集合写真

◆東京2020オリンピック・パラリンピック ボランティア説明会(2018年11月)

2018年11月6日(火)～8日(木)の3日間、学内の学生を対象に、大会ボランティア、都市ボランティアの申込みを促進するための説明会を開催しました。

都市ボランティアについては千葉県より担当者にお越しいただき、詳細についてお話いただきました。

また2日目の説明会では、ボランティアセンター職員より東京都の都市ボランティアについての説明も行ないました。

3日間で合計800名の学生が集まり、3日間を通し、1年生の参加が最多となりました。

この3日間の説明会を受け、2019年1月、3月、及び4月のボランティア説明会にて申込状況調査を行ない、少なくとも420名の学生が東京オリンピック・パラリンピックに関するボランティアに実際に応募したことを把握しています。

把握している申込み状況は次の表の通りです。

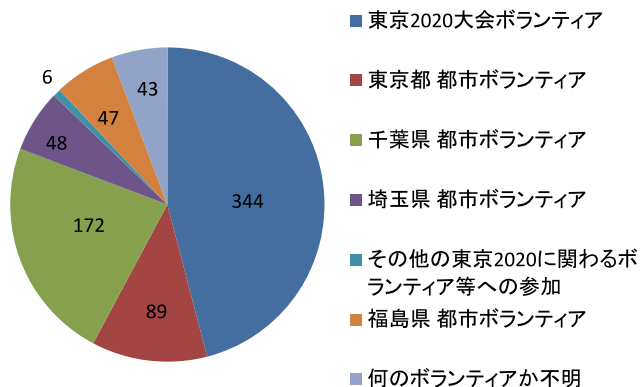


東京2020大会／都市ボランティア 申込状況（報告ベース）

更新日：2019/3/8

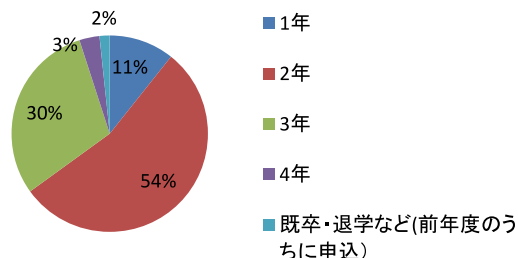
【ボランティア種類別申込状況】

申込総数	420
以下いずれかに申込んだ学生数	420
東京2020大会ボランティア	344
東京都 都市ボランティア	89
千葉県 都市ボランティア	172
埼玉県 都市ボランティア	48
その他の東京2020に関わるボランティア等への参加	6
福島県 都市ボランティア	47
何のボランティアか不明	43
セミナー修了者	191



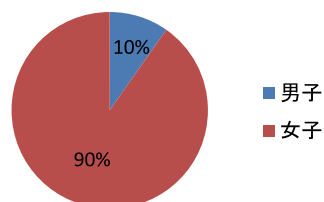
【学年別申込状況】

1年	45
2年	228
3年	126
4年	14
既卒・退学など(前年度のうちに申込)	7



【男女別申込状況】

男子	41
女子	379



地域貢献・国際交流ボランティア

地域貢献・国際交流ボランティアとは

学生は地域社会が抱える様々なニーズや課題を自ら発見することで、地域との協働意識を持ち、ボランティア体験を通して主体的、能動的に行動することを学びます。



国際コミュニケーション学科教授

和田 純

「ボランティア活動」というものが本質的に何を意味するのか、それを一言で語ることは簡単ではありません。考え方も活動内容も多種多様だからです。しかし、間違いなく言えるのは、あらかじめ誰かが用意したプログラムに応募して参加する形よりも、社会が何を求めているかを自分で見極め、自らの意思で立ち上がり、他人と連携しながら自力で創り上げていくボランティア活動の方が、より本来的だということです。

その意味では、「モノの寄付」「時間の寄付」「お金の寄付」の3つをフリーマーケットで連動させ、「誰もが気軽にできる社会貢献」をめざしてきた「幕張チャリティ・フリーマーケット＝幕チャリ」は、4人の学生が徒手空拳で始めた本来的なボランティア活動の好例です。幕張地域の活性化を目指し、同時に売り上げでアジアの人々の自立支援に役立とうという活動は、学内外で多くの支持を得て、14年間も継承されてきました。生み出した寄付金は2,000万円に達しようとしています。なんでも売ってしまっただけのお金に変えようとする風潮にもめげず、幕チャリの社会的な意義にこだわり続けてきた学生の姿には、ボランティア活動の原点を見る思いがします。大震災の記憶が風化していくことに抗して、腰をすえた復興支援に取り組む続ける学生たちにも、同じ姿を見出すことができます。

人は「つながり」なしでは生きていけません。グローバル化の急速な進展の中では、「国内」と「国際」の区別も明確でなくなってきました。「地域への貢献」から「世界への貢献」へとつながる「シェアリング」の視座をもつことで、学生ボランティアはもっと躍動的なものとなり、その可能性は無限だと感じます。

主な実績

◆ 東京ヤマソン運営補助ボランティア



2018年5月12日（土）に、「東京ヤマソン」が開催され、在学生15名が運営補助ボランティアとして参加しました。

「東京ヤマソン」は、3～4人一組で12時間以内に、JR山手線の全29駅を歩いて回るチャリティイベントです。

参加学生は、参加者チームの受付や誘導などを行い、大会の運営をサポートしました。活動後、参加学生からは外国人の参加者やスタッフと英語で楽しくコミュニケーションを取り活動することができたこと、今後の学習への意欲が高まったという報告が多く届きました。

◆ スコアサマーキャンプボランティア



2018年7月30日（月）～8月16日（木）、Sports Camp of America (SCOA) 主催の「スコアサマーキャンプ」が、伊豆及び清里の研修施設にて行われ、8名の在学生在が2泊3日または3泊4日のスケジュールで活動しました。在生は、日本語の説明を基本的に挟まないこのスポーツキャンプにおいて、アメリカの大学生（シニアカウンセラー）が主導で行う様々なアクティビティの運営をサポートしたり、キャンプ参加者（小学1年～高校1年の子どもたち）に英語の楽しさを伝えたり、参加者の生活面・活動面でのサポートに至るまで、多岐に渡り活躍しました。

◆ 幕張南小学校ニュージーランド交流会通訳ボランティア



2018年9月25日（火）千葉市立幕張南小学校にて、ニュージーランドからの留学生と幕張南小学校の子供達との交流会が行われ、24名の在学生在が通訳ボランティアとして参加しました。本学からのボランティアとしての参加は2018年で19年目になります。交流会では、ニュージーランドからの留学生とともに、日本とニュージーランドの文化交流をしました。

在生は日本の小学生とニュージーランドからの留学生との間の架け橋となり異文化交流をサポートしました。

第14回幕チャリ×ソラビト

2018年5月27日（日）、学生主催のチャリティイベント「第14回幕チャリ×ソラビト」が開催されました。

今年度は従来の幕チャリのチャリティ精神、地域社会・企業とのつながりを一層強化し、さらに参加者の特技や想いなどをもとに新たなPowerを生み出していく、というコンセプトを掲げた学生有志団体「ソラビト」と幕チャリを運営する学生有志団体「神田外語大学CUP」が協力して、新しい取組にチャレンジしました。

地域の方や企業の方からいただいた寄付品を販売するフリーマーケットやオークションの他、東日本大震災復興支援としての物産品の直販や海洋保護、ハンドスタンプ、幕張の地域おこしを目指すカレーの販売など、多種多様なブースが並び、パラリンピック競技ボッチャやスケートボードの体験コーナー、本学の課外活動団体や外部団体によるパフォーマンスなど多彩なコンテンツが展開されました。

幕チャリは、本学の学生ボランティア団体『CUP=Create Universal Peace』が主催者となって企画・運営し、大学全体が協働するチャリティイベントで、2005年にスタートしてからすでに2,000万円近くの寄付金を生み出してきました。この寄付金はアジア各地の自立支援や、東日本大震災復興支援などに役立てられてきています。



▲フリーマーケットの様子



▲YOSAKOI一心の演舞



▲幕チャリ×ソラビトのメンバー



▲学生団体のテント出店

幕張チャリティ・フリーマーケット2005年～2018年度実績

年度	日程	売上等総額	寄付金	寄付先	応援販売
2005	5月21日(土) 22日(日)	101万円	100万円	全国盲導犬施設連合会	なし
2006	5月20日(土) 21日(日)	80万円	65万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	なし
2007	5月19日(土) 20日(日)	130万円	130万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	なし
2008	5月17日(土) 18日(日)	202万円	202万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	なし
2009	5月16日(土) 17日(日)	184万円	184万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	なし
2010	5月15日(土) 16日(日)	151万円	151万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	なし
2011	5月21日(土) 22日(日)	205万円	205万円	神田外語グループ東日本大震災復興支援プロジェクト	なし
2012	5月19日(土) 20日(日)	217万円	107万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	107万円
2013	5月18日(土) 19日(日)	150万円	110万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	40万円
2014	5月17日(土) 18日(日)	128万円	75万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	53万円
2015	5月23日(土) 24日(日)	132万円	82万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	43万円
2016	5月29日(日)	71万円	28万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	21万円
2017	5月27日(土)	43万円	25万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	6万円
2018	5月27日(日)	36万円	30万円	公益信託 「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」	6万円

※2016年度は熊本地震への緊急支援として221,214円を日本赤十字社義捐金及び日本財団ボランティア活動資金へ寄付

※2017年度は熊本地震復興支援として122,335円を熊本県益城町に寄付

※幕チャリでは、秋の学園祭「浜風祭」でも小規模なフリーマーケットを開催し、これまでに約80万円をACTに寄付しています。

東日本大震災復興支援プロジェクト 2011年度～2018年度の記録

はじめに

神田外語グループでは、復興支援プロジェクトの一環として、英語をはじめとする外国語の運用能力において高い評価を頂戴している神田外語大学・神田外語学院の学生が被災地を訪問し、英語教育活動を支援しています。

2011年の活動から今年で9年目を迎える東日本大震災復興教育ボランティア（以下、復興教育ボランティア）は、英語教育活動を通して、被災地の子供たちに英語を楽しく学んでもらい、継続して被災地を訪れることで震災を風化させないことを目的に活動しています。2018年度は、復興支援団体「MAKE SMILE」を中心として、宮城県亘理町の7ヶ所の児童館で神田外語大学生27名が活動をしました。



▲荒浜地区にて語り部ツアー



▲津波到達地点表示



▲津波襲来の地表示



▲英語アクティビティの様子

2011年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/21、22	東日本大震災復興支援緊急募張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村	神田外語大学	3,800
5月下旬～ 7月中旬	英語教育活動の支援ボランティア	千葉県旭市小学校	6
7/20	シンポジウム 「3.11東日本大震災を考える—私たちに何ができるだろうか」	神田外語大学	80
8/9～11	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	16
8/22～26	宮城県：東松島市の浜市小学校、仮設住宅における活動支援	宮城県：東松島市	20
8/30～9/1	宮城県：女川町の仮設住宅における活動支援	宮城県：女川町	15
9/5～7	福島県：三春町の小学校における英語教育活動の支援	福島県：三春町	6
9/6～9	宮城県：南三陸町歌津中学校での教育支援ボランティア	宮城県：南三陸町	21
9/12	第1回東日本大震災復興ボランティア報告会	神田外語大学	—

※応援買い：募チャリでは「3.11を忘れない」を合言葉に震災復興支援を継続するため、地域の産品を積極的に購入することで被災地の生活再建、産業復興、雇用拡大を支援するという意味を込めた東北物産展エリアを展開しています。

2012年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/19、20	第8回募張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村、ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター、和田ゼミ社会起業研究会、稲毛商店街復興組合、(株)街づくりまんぼう、Power of Japan	神田外語大学	2,300
8/7～11	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	13
8/28～31	宮城県：東松島市の浜市小学校、仮設住宅における活動支援	宮城県：東松島市	8
9/2～5	福島県：三春町の小学校における英語教育活動の支援	福島県：三春町	9
11/7	第2回東日本大震災復興教育ボランティア報告会	神田外語大学7号館2F クリスタルホール	—

2013年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/18、19	第9回募張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村、ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター、和田ゼミ社会起業研究会	神田外語大学	2,800
6/19、21	東日本大震災復興教育ボランティア説明会	神田外語大学	264
8/5～9	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	39
9/1～5	福島県：三春町の小学校における英語教育活動の支援	福島県：三春町	17
11/7	第3回東日本大震災復興教育ボランティア報告会・講演会	神田外語大学7号館2F クリスタルホール	30

2014年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/17、18	第10回幕張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村、ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター、和田ゼミ社会起業研究会、社会福祉法人はたまき・手づくりの里、株式会社一松商店	神田外語大学	2,000
5/17、18	MAKE SMILE〜こども英語プロジェクト〜 ⇒近隣の小学生を対象に行った英語アクティビティと被災地のパネル展示	神田外語大学 芝グラウンド	56
8/4～8	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	40
8/31～9/5	福島県：三春町/天栄村の小学校における英語教育活動の支援	福島県：三春町 天栄村	17
11/1、2	浜風祭での活動紹介パネル展示	神田外語大学	106
11/11	第4回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（福島県三春町・天栄村）	神田外語大学	21
11/12	第4回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（宮城県亘理町）	神田外語大学	32

2015年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/23、24	第11回幕張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村、ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター、和田ゼミ社会起業研究会、社会福祉法人はたまき・手づくりの里、株式会社一松商店	神田外語大学	2,400
8/3～7	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	33
8/30～9/4	福島県：三春町／天栄村の小学校における英語教育活動の支援	福島県：三春町 天栄村	18
10/31、11/1	浜風祭での活動紹介パネル展示	神田外語大学	120
11/16	第5回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（福島県三春町・天栄村）	神田外語大学	20
12/1	第5回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（宮城県亘理町）	神田外語大学	28

2016年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/29	第12回幕張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：福島県天栄村、ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター、和田ゼミ社会起業研究会、社会福祉法人はたまき・手づくりの里、株式会社一松商店南三陸さんさん商店街、翔ジャパン株式会社	神田外語大学	1,350
8/1～5	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	19
8/30～9/2	福島県：天栄村の小学校における英語教育活動の支援	福島県：天栄村	20
10/14	第6回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（福島県三春町・天栄村）	神田外語大学	21
10/17	第6回東日本大震災復興支援ボランティア報告会（宮城県亘理町）	神田外語大学	32
10/29、30	浜風祭での活動紹介パネル展示	神田外語大学	150

2017年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/27	第13回幕張チャリティ・フリーマーケット ※応援買い：ブリティッシュヒルズ、石巻元気復興センター 和田ゼミ社会起業研究会、翔ジャパン、株式会社一松商店、社会福祉法人友好会、千葉のり店、みずきの里丸森	神田外語大学	1,400
7/31～8/4	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	28
10/28、29	浜風祭での活動紹介パネル展示	神田外語大学	—
12/19	「東北の新月」学内上映会の企画運営、活動報告	神田外語大学	50

2018年度

実施日	プロジェクト名	場所	参加人数
5/27	第14回幕張チャリ×ソラビト ※応援買い：ブリティッシュヒルズ、お菓子工房木村屋、気仙沼やまちょう、千葉のり店、和田ゼミ社会起業研究会、はらから社会福祉会、フレンズ、ヤマサコウショウ	神田外語大学	1,500
8/6～8/10	宮城県：亘理町の児童館における英語教育活動の支援	宮城県：亘理町	27
10/27、28	浜風祭での活動紹介パネル展示、南三陸産ワカメを使ったワカメ餃子の販売	神田外語大学	—
3/11、12	交流のアルバムを寄贈	宮城県：亘理町	4

2018年度宮城県亶理町ボランティア詳細

2018年8月6日（月）～8月10日（金）の5日間、在学生27名が宮城県亶理町にある7つの児童館で復興教育ボランティアを行いました。各児童館での英語教育ボランティア前に、震災語り部の会ワッターに参加し、震災当時の映像を見たり、お話しをお伺いしたりしながら荒浜地区を訪問し事前学習をしました。今年度はこれまでの活動に加えて、一般社団法人HAND STAMP ART PROJECTとのコラボレーションにも挑戦しました。この団体は、病気や障がいを抱える子どもたちを支援するために活動しています。在学生たちは亶理町の子どもたちとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて巨大アートを作るプロジェクトに参加しました。

この復興教育ボランティア活動は、震災復興支援団体MAKE SMILEが中心となり、資金集めから企画・学生募集・ボランティア当日の運営を担っています。これまでの活動の功績が評価され、今年度は外部団体「一般財団法人学生サポートセンター」より助成金をいただくことができました。

また、2019年3月11日の東日本大震災から8年の節目の日には、再び亶理町の児童館へ行き、子どもたちと交流してきた記録のアルバムを寄贈しました。

今後も一層亶理町や児童館との連携を深め、継続支援につなげていきたいと考えています。

日 程	2018年8月6日（月）～8月10日（金）
場 所 宮城県亶理町	亶理町中央児童センター、逢隈児童館、荒浜児童クラブ、高屋児童クラブ、 吉田児童クラブ、吉田西児童クラブ、中町児童クラブ
内 容	・児童館での英語アクティビティおよび子供たちの勉強、遊びサポート ・震災語り部ワッターツアーに参加し、震災復興について学びを深める
参加者	27名 ※震災復興支援団体MAKE SMILEが企画・学生募集 プログラム運営・手配・管理・助成金申請まで中心的に担った
外部助成金	同好会補助金 29万8,100円
	一般財団法人学生サポートセンター 10万円
	学内助成金 22万5千円

活動の記録



▲2階以上に教室を設置した亶理町立荒浜中学校



▲津波に流された船



▲活動の様子



▲亶理町内で行われた3.11追悼イベントにて



▲学生サポートセンター助成金受賞式にて



▲いただいた表彰状

災害募金活動

2018年に甚大な被害をもたらした「北海道胆振東部地震災害」および「7月豪雨災害」の復興支援として、震災復興支援団体MAKE SMILEを中心に学内で募金活動を行いました。

日 程 2018年11月6日(火)～9日(金)昼休み
場 所 食神前、千葉銀行ATM前、募金箱（食堂などに設置）

お預かりしました募金は次の通りです。

- ・平成30年北海道胆振東部地震災害 【総額】 19,119円 （寄付先：北海道庁）
- ・平成30年7月豪雨災害 【総額】 10,663円 （寄付先：日本赤十字社）

今後も被災地の復旧・復興を願うとともに、温かいご支援をくださいました皆様に心より感謝申し上げます。



参加学生の声

MAKE SMILE 前代表
アジア言語学科インドネシア語専攻・2年（当時）
酒田 海



今、東北での震災復興のニーズが変わってきています。それはハード面からソフト面への移行です。ハード面とは道路補正や瓦礫撤去などの行政が大きく関わる作業で、ソフト面とは心の復興やケアなどです。このソフト面は大学生である私たちが現地の方々と距離が近いからこそできる活動だと思います。

MAKE SMILEは2018年度、愛好会から同好会に昇格しました。そして、一般財団法人学生サポートセンターから助成金を頂きました。また、それをきっかけに私たちの活動をサンケイビズに掲載して頂きました。さらに、ラジオ放送のJ-Waveにも出演させてもらいました。この結果は歴代の先輩方の活動があって叶ったことであり、2018年度はMAKE SMILEが大きく飛躍した年だと確信しています。

2018年度のMAKE SMILEのテーマは“継続”です。年間を通して、「MAKE SMILEと亘理町の繋がりを作りたい。そして震災から8年近くが経過し、まだ私たちは亘理町と長く関わっていききたい」と思ったので、このテーマにしました。そこで、今年度は3月11日、12日に亘理町を訪問し、私たちが作成したアルバムを届けることを企画しました。

このアルバムは、2018年度の私たちの活動で撮影した子供達の写真をまとめたものです。記憶はやがて年月を重ねるごとに薄れていきます。しかし、アルバムに記憶を残すことで子供達が大人になった時に「～先生、～ちゃんがいたな～。大学生が夏に来て英語教えてくれたな～、一緒に遊んだな～」と思い出すきっかけになればいいと思い作成しました。

そして、3月11日、12日に私たちは亘理町の児童館を半年ぶりに訪問しました。私たちの訪問に気づいたある子供が、玄関まで駆けてきてくれました。その子は私と今まで計8日間しか過ごしていませんが、その期間で密度の濃い時間を過ごせたことで、このような素晴らしい関係を築けたと思います。その子以外にも多くの方が喜んでくれました。その光景を見て、毎年継続して亘理と関わることに意味があるなと感じました。また、「毎年誰かが会いにきてくれる」と現地の方々に感じ続けてもらえるように頑張ろうと思いました。

私は大学に入学してからボランティアの定義とはなんだろうかと考え続けてきました。しかし、答えが見つかりませんでした。いくつかのボランティアを通して感じたのは、最終的にその活動は自分の経験となり、同時に自己満足を満たしてくれているような気がしました。たとえ自己満足だったとしても、その活動がきっかけとなり多くの人との出会いがあり、外部との繋がりも増えました。ボランティアを通して多くのことを学ぶことができたので、これからも様々なボランティアに参加していきたいです。

国際協力・国際開発ボランティア

国際協力・国際開発ボランティアとは

学生は海外ボランティアプログラムに参加し、大学で培った知識・技能を国際協力の現場で活用していきます。言語や文化の異なる人々と協力し合いながら活動する中で「世界の諸問題に目を向け、問題解決に向けて主体的に行動する力」と「国際社会で通用するコミュニケーション能力」を養い、幅広い視野を持つグローバル人材の育成を目指します。

イベロアメリカ言語学科准教授
(CIEE海外ボランティア単位認定教員)

高 木 耕



国際協力の世界でよく使われる表現に「魚を与えるのではなく魚の釣り方（捕り方）を教える」というものがあります。「援助を続けることも大事だが、支援する相手の自立を促すことを忘れてはいけない」ということです。大学教育も似たようなものであり、学生は教室の中で授業を受けるだけでなく、学んだことを自ら実践して経験を積まなければなりません。義務教育が「道具箱を道具でいっぱいにする期間」であるとするならば、大学の4年間はまさに「その道具を使って何かできるのかを学ぶ期間」であると言えます。おのずから、日々の学習に力を入れるのはもちろんのこと、授業のない長期休暇中の過ごし方にも工夫をしたいものです。

国際協力・国際開発ボランティアは、外国を知り、外国人と交流し、異文化に触れる絶好の機会となっています。その活動分野は、教育支援から環境保全、イベント開催事業など多岐にわたります。大学で身に付けた語学力を試し、外国人とコミュニケーションをとりながら共同作業を行います。その中で初めて見えてくるものがあります。多くの学生が、「国際協力・国際開発ボランティアを通して与えられたことよりも得られたことのほうが多い」と言います。自分の力で社会に貢献するという成功体験はかけがえのないものとなり、その先の人生に活力を与えることでしょう。国籍の異なる者同士による共同生活は貴重な体験でもあり、財産となることでしょう。

ラグビーワールドカップや東京2020オリンピック・パラリンピックの開催で、日本はその場所を提供するだけでなく、世界の人びとの交流を促進する役割を担っています。日本が注目されるのと同時に、世界を舞台に活躍する日本人が期待される時代となります。多くの学生は「自分には何かできるのか」を自問自答し、時には行動を起こすことに躊躇します。たしかに、経験がそれほど豊富でない人にできることは限られているでしょう。しかし、どんなに大きな道も最初の一步から始まるものです。最初の一步を踏み出す勇気さえあれば、次の一步も見えてきます。「自分にできること」を見つけ、徐々にできることを増やしていきましょう。社会貢献の仕方を学び、実践し、実践を通してまた学ぶ。こうした成長を日々続けていくことはとても意味のある生き方であると思います。

CIEE海外ボランティアプログラム

一般社団法人CIEE国際教育交換協議会^{注1}のボランティアプログラムを通して夏季・春季に海外でのボランティア活動を行っています。

注1) 一般社団法人CIEE国際教育交換協議会とは、アメリカに本部を持つ非営利教育団体です。
「TOEFLテスト日本事務局」としてTOEFLテスト公式情報を発信しています。

※単位認定科目

「国際ボランティアプロジェクト」に2週間以上参加した学生に対し、4つの課題をこなすことを条件に「国際ボランティア体験」という科目名で、2単位を認定しています。

■ 主な実績

◆ 国際ボランティアプロジェクト（カンボジア、メキシコ、フランス、台湾、スペインなど）



カンボジアでは、地元子どもたちや若者に無料の教育活動を提供している非営利教育センターでのプロジェクトに参加しました。

1プロジェクト15名前後で構成され、ドイツ、スペイン、韓国、トルコ、ポルトガルなど様々な国から集まったボランティアとともに共同生活をしながら、活動を実施しました。

◆ 教師アシスタントボランティア（アメリカ）



教師アシスタントとして現地でホームステイをしながら、小学校にて教材準備のお手伝いや授業中の児童のサポートを行いました。授業の中で、1時間ほど時間をもらい、日本の文化や言語の紹介をしました。子供達は日本の文化に興味津々で、自ら鶴の折り方などを聞いてくる子供もいました。

◆ 日本語教師アシスタント（インドネシア）

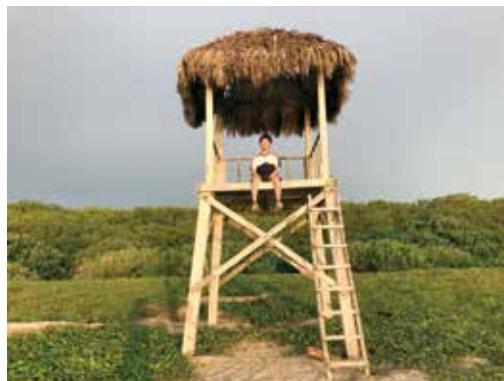


インドネシアの高校で、ホームステイをしながら日本語クラスで日本語や日本の文化を教えました。高校だけではなく現地の大学においても「異文化理解」の授業内で、日本についてのプレゼンテーションを実施し、日本の現代文化などを中心に教えました。

参加学生の声

2018年度夏 国際ボランティアプロジェクト参加
イペロアメリカ言語学科スペイン語専攻・2年（当時）

大津 翔さん



国際ボランティア活動に参加したきっかけは、長い夏休みの間になにか有意義なことをしたいと考えたことと、留学を考えていた国の雰囲気を肌で感じてみたかったからです。大学でCIEEのボランティア活動の説明会に参加した際に、比較的安い費用で海外に滞在でき、さまざまな活動を通して英会話の練習もできる点に惹かれて参加を前向きに考えました。たくさんあるプロジェクトの中から、興味のある環境保全や動物保護の活動を探していたところ、留学先として検討していたメキシコでのウミガメ保護という、ぴったりのものを見つけたのですぐに応募しました。

現地では、ウミガメが産卵をするビーチでパトロールやゴミ拾いをしたり、ウミガメの卵を保護施設へ移したり、孵化した子ウミガメを海へ放流したりといった活動を行いました。ウミガメが産卵するのは基本的に深夜なので活動も主に深夜でした。ライトを片手にゴミを拾い、ときどき産卵した形跡を見つけては砂を掘り返して卵を集め、壊してしまわないように慎重に運ぶという作業は大変でしたが、他のメンバーとお互いに助け合ったことで楽しむことができ、仲も深まりました。

初めて訪れる地で、決して充分とはいえない英語と勉強を始めたばかりのスペイン語だけでうまくやっていけるか不安でしたが、終わってから振り返ると、なんとかなるものだなと思いました。現地に着いてからいくつかトラブルがありましたが、その度に周りの人に助けていただいたり、思い切って行動してみたりしたことで乗り切ることができました。たくさんの人の優しさや心遣いに触れ、また初めて会ったメンバーたちとも仲良くなれたおかげで、実りある時間を過ごせました。誰かと関わることは新しいなにかを学ぶきっかけになり、自分を成長させることができると実感しました。留学も含めて、これからの大学生活では今までよりたくさんの人に積極的に関わり、語学力だけでなく自分の人間性も伸ばせるよう努力していこうと考えています。



ホノルルフェスティバル運営補助ボランティア

2019年3月5日(火)～13日(水)、ハワイのホノルルで開催されているホノルルフェスティバル(株式会社JTB主催)の運営ボランティアに、7名の在学期生が参加しました。ホノルルフェスティバル内での教育プログラム運営補助、縁日ブース設営・運営補助、ホノルルレインボー駅伝運営補助など様々な役割を担い、学生の力でホノルルフェスティバルを盛り上げています。今年度で4年目となります。

(URL <http://www.honolulu festival.com/ja/>)

※ホノルルフェスティバルとは…?

「パシフィック・ハーモニー」「愛と信頼」をテーマに、「異民族の文化交流によって平和的な生き方を模索する」ことを目的とした、毎年3月に開催されるハワイ最大級の国際的な文化交流イベントです



▲ボランティア学生集合写真



▲ハワイの雰囲気

9日間

Honolulu Festival Volunteer Tourism Program tour

ホノルルフェスティバルとは…
「パシフィック・ハーモニー」愛と信頼をテーマに、「異民族の文化交流によって平和的な生き方を模索する」ことを目的としたホノルルフェスティバルは、今年第25回を迎えます。さらに多くの国々・様々な民族の文化に触れ合い、理解しあうことで、世界がひとつの家族のようになっていくよう、多種多様な文化交流を提供させていただきます。今ツアーは、フェスティバルの参加者ではなく、運営系ボランティアスタッフとして参加し、真実な経験を通して自らをステイタージュな世界を広げることができます。

写真:イメーグ

日程	地区	活動時間	交通機関	活動内容	備考
3/5 (火)	羽田空港 ホノルル	21:00 23:30	HAWAII	羽田空港集合 空港ホノルルへ	機内泊 機内食
3/6 (水)	ホノルル	午前 午後	道路車	朝晩、ホテルへの移動となります。 【プロダクションフリーング】舞台中のスケジュールを案内 【オリエンテーション】ホノルルフェスティバルとは(講演) 【English Lesson】事前に使える英会話講座 【ボランティア参加者交流会】	機内泊 機内食
3/7 (木)	ホノルル	午前 午後		【ハワイの歴史を学ぶ】ハワイの文化・歴史について学ぶ 【市内PTVの参観】ホノルル・レインボー駅伝/アラハバナス コンベンション・センター見学	機内泊 機内食
3/8 (金)	ホノルル	終日		【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加	機内泊 機内食
3/9 (土)	ホノルル	終日		【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加	機内泊 機内食
3/10 (日)	ホノルル	終日		【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加 【ホノルルフェスティバル】ボランティアスタッフとして参加	機内泊 機内食
3/11 (月)	ホノルル	午前		【朝のミーティング/報告会】 終了報告会/社員交流会/終了経理	機内泊 機内食
3/12 (火)	ホノルル	21:00 23:30	HAWAII	空港へ 空港ホノルルへ	機内泊 機内食
3/13 (水)	羽田空港	22:00		送迎車、解散、お別れです。	

ボランティアセンター主催プログラム・イベント

大覚寺プログラム

嵯峨天皇の離宮として建立されて1200年以上、絶えず歩みつづけてきた由緒あるお寺で、お寺の生活を体験しながら、朝のお勤めから始まり、生け花、写経、お抹茶体験や寺院の案内など様々な体験を通して日本文化を学ぶプログラムを2016年より開始しました。京都外国語大学講師による京都学講座や僧侶との意見交換で日本文化についてより理解を深めることができます。また、語学力を生かした実践の場として、大覚寺にいらした海外のお客様へ英語を中心とした多言語で、寺院のご案内をする通訳ボランティア体験ができる人気プログラムです。

日 程	2018年8月22日(水)～24日(金)
場 所	京都府 旧嵯峨御所 大本山大覚寺
参 加 者	8名
協 力	大覚寺の皆様、京都外国語大学 村山先生
プログラム	京都学講座、和菓子づくり、僧侶との交流会、寺院案内ボランティア(英語・日本語)、抹茶体験、生け花体験、お寺の生活体験、写経体験



▲京都学講座



▲寺院案内ボランティアの様子



▲生け花体験



▲僧侶との交流



▲写経体験



▲抹茶体験

ボランティアシンポジウム～平昌から東京へ～

幕チャリと同日の2018年5月27日(日)10:00～12:40に、大学2号館3階301教室にて、平昌オリンピックに参加した全国外大連合のボランティア学生たちから体験を聞き、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティア・レガシーに繋ぐという目的にてシンポジウムが開催された。参加者内訳等詳細は以下の通り。



主催（共催）

千葉市オリンピック・パラリンピック振興課
神田外語大学ボランティアセンター
(全国外大連合通訳ボランティア支援事務局)

参加者内訳

総参加者内訳：学内／一般

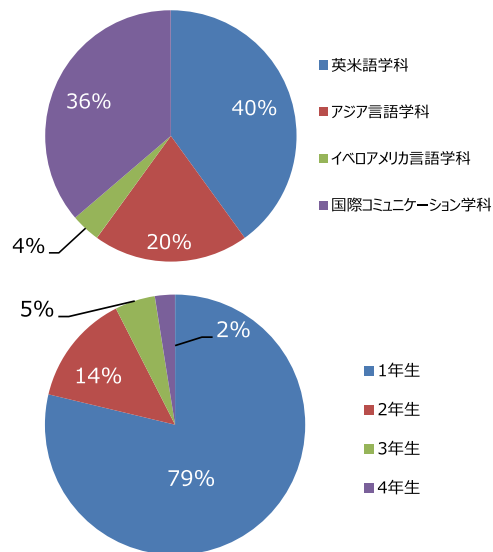
学内参加者数	80名	総参加者数	200名
一般参加者数	120名		

学内参加者内訳：学科別

学科名	人数
■英米語学科	32名
■アジア言語学科	16名
■イベロアメリカ言語学科	3名
■国際コミュニケーション学科	29名
学内参加者総数	80名

学内参加者内訳：学年別

学年	参加者数
■1年生	63名
■2年生	11名
■3年生	4名
■4年生	2名



▲7外大生とのパネルディスカッション



▲ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長代理 西阪昇氏と

Dee Dee Trotter氏講演会

2018年5月24日(木) アメリカ陸上界のスーパースター Dee Dee Trotter(ディーディー・トロッター) 氏講演会を実施しました。

当日は在学生、一般、行政関係者などあわせて300名近くの方にご来場いただきました。

Dee Dee Trotter (ディーディー・トロッター) 氏は400mトラック選手として、2004年アテネオリンピック、2012年ロンドンオリンピックで金メダルに輝き、現在は、イー・エフ・エデュケーション・ファースト(日本法人イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社／本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：サンチョリ・リー) のオリンピック・プロジェクト・アンバサダーを務めています。

講演会は全て英語で実施され、本学英米語学科教授の矢頭典枝先生と英米語学科3年(当時)の柴田三揮さんが司会を務めました。

彼女のモットーである “I Can. I Must. I Will.” (私はできる、私はやらなくては、私はやる。) と題する本講演会で、困難へ立ち向かう姿勢や経験、またチャレンジを続けることへの強い想いを伝えてくれました。



JICAボランティアセミナー

ボランティアセンターは、国際協力や国際開発について考えるきっかけづくりとしてのJICAボランティアセミナーを実施しています。セミナーでは、協力隊事業の概要説明や現役学生及び神田外語大学卒業生の協力隊経験者による体験談も話してもらいます。

日 程	内 容
2018年6月12日(火)	・ 青年海外協力隊概要説明 永井大策氏 (JICA千葉デスク) ・ 体験談 2016年英米語学科卒業生 長谷川翔平氏 (マダガスカル／青少年活動)

※長谷川氏の呼びかけのもと、JICA主催の「笑顔のためにプログラム」の一環として、サッカーボール5個、フットサルボール3個をアフリカ・マダガスカルへ寄付しました。





青年海外協力隊経験者が体験談を語り、国際協力や国際交流について考えるきっかけにしてくださいセミナーです

JICAボランティアセミナー

～世界に笑顔をひろげるシゴト～



体験談発表者 長谷川 翔平さん (2016年英米語学科卒業)

JICA青年海外協力隊として、アフリカの島国マダガスカルのトアマシナという町で、教育活動に取り組んでいます。スポーツを介してチームワークや思いやりの向上を図る授業をマダガスカルに定着させたいと思っています。よろしくお願いします。



概要・参加方法

【日時】 6月12日(火) 12:20～13:00

【場所】 2-102教室

【参加方法】 右のQRコードもしくはCampus Web[お知らせ]からお申込みください。

※締切: 6月4日(月) 午後17:00

※当日参加も大歓迎ですが、資料準備のため事前にお申込ください。

問い合わせ先:
神田外語大学ボランティアセンター



ボランティア参加証授与式

2016年度より、ボランティアに参加した学生を対象にボランティア参加証授与式を挙行しています。毎年100名以上の在学生在が一堂に会し、ボランティアセンターより、感謝と激励の気持ちを込めてひとりひとりの学生に参加証を授与します。「スポーツ通訳・国際大会」「地域貢献・国際交流」「国際協力・国際開発」の各分野から代表学生が登壇し、ボランティアを通しての自己成長や人々との繋がり大切さなど、それぞれの経験談を交えながら、ボランティアへの熱い想いを語ってくれました。

日 程	場 所	参加人数
2019年 1 月21日(月)	クリスタルホール	120名



▲参加証授与の様子



▲集合写真

学生生活で役に立つ！講座特集

2018年12月の3週にわたり、「学生生活で役に立つ！講座特集」を実施しました。

この講座は、ボランティアに参加する際の心構えやマナー、社会人基礎力の習得を目的とし、全学科全学年を対象に企画しました。ボランティア活動を通じて社会と関わる学生にとって、大変有意義な講座となりました。

講座名	ボランティアを120%楽しむための秘訣！
日時	2018年12月4日(火) 12:15～13:00 (昼休み)
講師	日本財団学生ボランティアセンター 宮腰義仁氏
内容	ボランティアについて理解を深める
参加学生の感想	●ボランティアは、支援するということだけでなく、自分の得意なことを伸ばしたり、苦手なことを克服する機会でもあることを学んだ。 ●ボランティアについて考える良い機会になった。

講座名	第一印象で変わる！メールの書き方講座
日時	2018年12月13日(木) 12:15～12:45 (昼休み)
講師	キャリアセンター、ボランティアセンター職員
内容	第一印象で好印象を与える基本原則、メールの書き方を学ぶ
参加学生の感想	●今までよく分からず、メールを送ることに苦手意識を感じていたが、正しい書き方が分かった。 ●実際に挨拶の練習をしたり、メールを書いたりして内容が濃かった。役に立つ知識ばかりで、自分のモチベーションも上がった。 ●目上の人や、外部の人、社会人になった時の、基礎的な常識知識を学べ、自分のメールの書き方の見直しができた。

講座名	人をグッと惹きつける！コミュニケーション講座
日時	2018年12月17日(月) 14:50～16:20(4限)
講師	ソーシャルスキルネットワーク株式会社 代表取締役 小森まり子氏
内容	人を惹きつける話し方！すぐにでも実践できるコミュニケーションスキルを身に付ける
参加学生の感想	●参加型の授業で、とても楽しかった。 ●えっ！？と思うようなコミュニケーションスキルを上げる方法がたくさんあって面白かった。 ●座学だけでなくアクティビティもあって、全く退屈することなく、かつ目からウロコな情報がたくさん得られた。



KUIS×JR東日本特別講演会

2018年12月21日(金)神田外語大学にて、KUIS×JR東日本特別講演会『通訳ボランティアが変えた人間力とキャリア形成』を実施しました。講演会は、朴ジョンヨン講師(当時)のスポーツ文化論Bのクラス内で開催され約70名の学生が参加しました。

当日は東日本旅客鉄道株式会社 東京駅助役 竹岡美砂様と、数々のスポーツ通訳ボランティアや東京駅での活動を行ってきた国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻4年(当時)の眞壁ひとみさんが登壇し、キャリア形成とグローバル人財について考えました。

第1部では、竹岡様より東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向け、JR東日本が求める人財像にて講演されました。その他、JR東日本の今までにない新しい取り組みやキャリア例についても触れられました。

第2部では、眞壁さんより平昌冬季オリンピックとJR東京駅のボランティアから得たものについて話されました。通訳ボランティア育成セミナーを修了した後、2016年より東京駅での外国人案内(英語・韓国語)を始め、2018平昌冬季オリンピック等の数々の世界スポーツ大会における通訳ボランティア経験から、言語運用能力向上についてはもちろん、成長した人間力やキャリアアップについて話し、講演後も参加者から多くの質問や相談が寄せられました。

2018年に本学を運営する学校法人佐野学園(東京・千代田区)とJR東日本は包括連携協定を結び、地域貢献と人材育成の推進を目的に進めています。

講演会概要

開催日程：2018年12月21日(金) 10:40~12:10 (2限スポーツ文化論Bクラス内)

開催場所：3-302教室

目 的：東京2020大会を控え、国際化が加速するJR東京駅や、冬季アジア札幌大会・平昌冬季オリンピック等の通訳ボランティアでの活動を通して、KUIS生のキャリア形成とグローバル人財について考える。

主 催：神田外語大学スポーツ通訳ボランティア推進室

協 力：神田外語大学キャリア教育センター



ロゴマークの一般募集及び決定

2018年7月10日（金）ボランティアセンターにて、ボランティアセンターロゴマーク最優秀作品の表彰状授与式が行われ、柳沼ボランティアセンター長（当時）より表彰状の授与および副賞ギフトカード5,000円分を贈呈しました。

4月から学内公募されていたボランティアセンターロゴマークですが、6点の応募があり、第一次審査、最終審査を経て、イベロアメリカ言語学科4年の新麗真（あらた れいま）さんの作品が最優秀作品として選ばれました。

作品を作る際に心がけたことについては、「KUISボランティアセンターの特徴をイメージした、複数の人の心（ハート）が寄り添い、また手を取り合うように見えるよう意識しました」と話してくれました。

今後ボランティアセンターの広報物等に幅広く使用される予定です。



2018年度ボランティア実績一覧

A：スポーツ通訳・国際大会【11件／103名】 B：地域貢献・国際交流【47件／471名】

C：国際協力・国際開発【12件／42名】

No	ボランティア名	カテゴリー	日程	人数	内容
1	エアロビック協会Suzuki World Cup 通訳ボランティア	A	4月21日(土)・22日(日)	3	ウォームアップから競技までの選手が、タイムスケジュールに沿って動いているかを管理監督
2	C&C Japanゴールボール日本代表チーム合同 合宿通訳ボランティア	A	4月27日(金)～30日(月)	5	男女日本代表のゴールボールチームが、ロシア、トルコ、中国チームを迎えて合同合宿を行う際の運営における各国とのコミュニケーションを図るための通訳。スケジュールや移動など生活上の打合せの他、練習の内容について協議する際の通訳
3	WDSF世界ユースブレイキン選手権 通訳ボランティア	A	5月17日(木)～21日(月)	13	各国から来日されるユースブレイキンオリンピックの出場者のアテンドサポート及び通訳
4	カラテドリームフェスティバル2018 国際大会通訳ボランティア	A	6月22日(金)～24日(日)	8	カラテドリームフェスティバル2018国際大会に出場する選手の通訳
5	女子ソフトボールニュージーランド代表 チーム等による少年少女ソフトボール教室 通訳ボランティア	A	7月27日(金)	1	ニュージーランド代表等が実施するソフトボール教室における、選手と小中学生の間の通訳
6	FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 2018通訳ボランティア	A	7月28日(土)・29日(日)	3	国際バスケットボール連盟(FIBA)公式大会の参加チームへの帯同
7	第16回世界女子ソフトボール選手権大会 通訳ボランティア	A	8月1日(水)～12日(日)	46	言語サポート全般、チーム帯同アシスタント、競技アナウンスなどの通訳サポート
8	ちばアクアラインマラソン (ハーフ会場) 通訳ボランティア	A	10月21日(日)	4	ハーフフィニッシュ会場で、外国人ランナーへの誘導や会場案内。困っている外国人ランナーを助けたり、運営スタッフとの仲介を行うなど、通訳ボランティアとして活動
9	ちばアクアラインマラソン (メイン会場) 通訳ボランティア	A	10月21日(日)	8	メイン会場で、外国人ランナーの当日受付業務や案内。困っている外国人ランナーを助けたり、運営スタッフとの仲介を行うなど、通訳ボランティアとして活動
10	IIBC第15回ジュニア合気道記念大会 通訳・運営ボランティア	A	2019年2月11日(月)	10	「第15回ジュニア合気道記念大会」における海外選手の受付、誘導、または、合気道演武会場にて審査員の英語・スペイン語通訳サポートや日本文化(お茶・和菓子)の説明
11	IIBC B.League U15 Challenge Cup 2019 通訳ボランティア	A	3月25日(月)～27日(水)	2	「B.League U15 Challenge Cup 2019」における通訳サポート及び受付
1	千葉日大第一中学校 英語学習補助ボランティア (前期)	B	4月2日(月) ～8月31日(金)	6	放課後に中学1～2年生の希望者を対象に英語の学習支援
2	東京ヤマソン運営補助ボランティア	B	5月12日(土)	15	東京ヤマソンの会場で、参加者チームの受付及び誘導
3	タイフェスティバル通訳・ 運営補助ボランティア (A日程)	B	5月11日(金)～13日(日)	1	タイフェスティバルにおいてタイ語～日本語通訳、展示品搬入、陣列、用品調達(買い物)のサポート
4	タイフェスティバル通訳・ 運営補助ボランティア (B日程)	B	5月12日(土)・13日(日)	1	タイフェスティバルのイベント会場でタイ語～日本語通訳、展示品の詳細説明、農産品・食品試食提供のサポート
5	スバルタンレース運営補助ボランティア	B	5月19日(土)	19	スバルタンレース会場での受付業務、給水ポイント等の対応、清掃等
6	幕張新都心クリーンの日 (春) 清掃活動ボランティア	B	5月23日(水)	2	幕張新都心進出企業の方々と、幕張新都心及びその周辺の清掃
7	レッドブル・エアレース千葉2018 運営補助ボランティア	B	5月26日(土)・27日(日)	26	レッドブル・エアレース千葉2018にて千葉後援会会場の運営補助及びエコステーションの管理
8	第14回幕チャリメソラビト	B	5月27日(土)	60	第14回幕チャリメソラビトの企画・運営
9	TOKYOベイエリアナイトラン (第一回) 運営補助ボランティア	B	6月8日(金)	11	スポーツニッポン新聞社主催のTOKYOベイエリアナイトランの受付、荷物預かり、給水係、走路案内などの運営補助
10	ペイタウン商店街翻訳ボランティア	B	7月～8月	2	幕張ペイタウン商店街より依頼の外国人向けチラシの翻訳
11	千葉市立打瀬小学校留学生文化交流ボラン ティア	B	7月11日(水)	6	千葉市立打瀬小学校5学年3クラスとの交流会に、本学留学生(メキシコ：4名、カザフスタン：1名、韓国：1名)が参加

2018年度ボランティア実績一覧

No	ボランティア名	カテゴリー	日程	人数	内容
12	ブラジルフェスティバル運営補助ボランティア	B	7月14日(土)・15日(日)	42	ブラジルフェスティバルでの誘導、受付などの運営補助
13	スコアサマーキャンプ運営補助ボランティア	B	7月30日(月) ～8月16日(木)	8	キャンプ運営に関わるあらゆるサポート、カウンセラーとキャンパーとのファシリテーター役
14	東日本大震災復興教育ボランティア (宮城県亘理町)	B	8月6日(月) ～8月10日(金)	27	宮城県の亘理町中央児童センター、逢隈児童館、吉田西児童館、吉田児童クラブ、高屋児童クラブ、中町児童クラブ、荒浜児童クラブにて英語アクティビティを実施
15	サマーソニック千葉物産展	B	8月18日(土)・19日(日)	8	サマーソニックでの千葉物産展の運営ボランティア
16	「えいごであそぼ」英語講師ボランティア	B	8月22日(水)～24日(金)	7	小学校2～4年生の児童がより英語に親しみ、身近に感じられるようゲームの要素を取り入れた活動や身体を使った英語活動
17	京都大覚寺日本文化体験&通訳ボランティア	B	8月22日(水)～24日(金)	8	京都大覚寺にてお寺の生活を体験しながら、朝のお勤めから始まり、生け花、写経、お抹茶体験や寺院の案内など様々な体験を通して日本文化を学ぶプログラム
18	千葉日大第一中学校英語学習 補助ボランティア(後期)	B	9月1日(土) ～2019年3月30日(土)	1	放課後に中学1～2年生の希望者を対象に英語の学習支援
19	千葉市アクアスロン大会運営 補助ボランティア	B	9月8日(土)・9日(日)	34	千葉市海浜アクアスロン大会における大会準備及び運営ボランティア
20	TOKYOベイエリアナイトラン(第2回) 運営補助ボランティア	B	9月21日(金)	14	スポーツニッポン新聞社主催のTOKYOベイエリアナイトランの受付、荷物預かり、給水係、走路案内などの運営補助
21	フィエスタメヒカーナ運営補助ボランティア	B	9月22日(土)～24日(月)	33	メキシコの独立記念日(9月16日)を祝してお台場で毎年開催されるイベントで出されたごみの収集、分別や来場者へのプログラム配布、来場者の誘導
22	幕張南小学校ニュージーランド交流会 通訳ボランティア	B	9月25日(火)	24	幕張南小学校にて小学生とニュージーランドから来た留学生の交流会を行う際の通訳
23	台湾大学モニターツアーアテンドボランティア	B	9月25日(火)・26日(水)	2	台湾の大学生と1泊2日の旅行に一緒に参加をし、公共交通機関の移動のフォロー、千葉県内の観光の見所のアドバイス、異国の同世代の大学生との交流を行う
24	公文イングリッシュイマージョンデイ 運営補助ボランティア(横浜)	B	9月29日(土) ※30日(日)は荒天のため 中止	5	5時間程度のプログラム中、子どもたちのグループリーダーとして英語のみで子どもたちのイマージョン体験をサポート
25	幕張本郷中学校タイ語サポートボランティア	B	10月1日(月) ～3月22日(金)	4	幕張本郷中学校におけるタイ人生徒のサポート
26	輸出EXPO通訳ボランティア(森白製菓)	B	10月10日(水)～12日(金)	3	展示会ブースに駐在し、世界各国から来場するバイヤーとの商談通訳
27	幕張新都心クリーンの日 (秋)清掃活動ボランティア	B	10月11日(木)	1	幕張新都心進出企業の方々と、幕張新都心及びその周辺の清掃
28	公文イングリッシュイマージョンデイ 運営補助ボランティア(藤沢)	B	10月13日(土)・14日(日)	3	5時間程度のプログラム中、子どもたちのファシリテーターとして英語のみで子どもたちのイマージョン体験をサポート
29	東京・葛飾ウルトラマラソン 運営補助ボランティア	B	10月20日(土)	3	東京・葛飾マラソン大会での給水、補給食などの運営補助
30	公文イングリッシュイマージョンデイ 運営補助ボランティア(静岡)	B	10月20日(土)・21日(日)	1	5時間程度のプログラム中、子どもたちのファシリテーターとして英語のみで子どもたちのイマージョン体験をサポート
31	幕張ベイタウン ハロウィンパーティ2018 運営補助ボランティア	B	10月21日(日)	12	ハロウィンパレードの引率・先導・警備、パレードお菓子配布スポット店でのお菓子配布対応、ハロウィンパーティ物販応援
32	流山おおたかの森高校外国人生徒サポート ボランティア	B	10月～	2	流山おおたかの森高校のフィリピン人生徒への学習サポート
33	第1回チバテレビ4時間リレーマラソンin MAKUHARI 運営補助ボランティア	B	11月10日(土)	24	チバテレビ4時間リレーマラソンin MAKUHARIでの、給水所ボランティア、観客誘導
34	「英語で楽しむ親子おはなし会」 読み聞かせボランティア	B	11月10日(土)・17日(土)	4	美浜図書館(本館、分館)で幼児～小学生とその保護者を対象に英語絵本の読み聞かせ及び英語アクティビティの実施
35	サンタクロースイベント通訳ボランティア	B	11月17日(土) ～28日(水)	5	サンタクロースが話した言葉を日本語に訳し各訪問先の方々に伝える
36	幕張南小学校「学びフェスタ」 講師ボランティア	B	11月17日(土)	9	幕張南小学校にて開催される「学びフェスタ(地域一般のボランティアの方々や大学生が講座を開き小学生がその中から好みの2講座を選んで受講するというイベント)」において、子どもたちが世界の言葉と文化に興味を持ってもらえるような講義、ワークショップを担当

No	ボランティア名	カテゴリー	日程	人数	内容
37	千葉市植樹ボランティア	B	11月24日(土)	2	千葉市若葉区にある泉自然公園の多くの杉が腐朽れ病や倒木の危険性が高い状況にあるため、市民が安心して多くの動植物とふれあうことができる魅力ある「野鳥の森」を再生するために植樹を行う
38	幕張ベイタウンマラソン大会運営補助ボランティア	B	12月16日(日)	13	幕張ベイタウンマラソン大会での、大会本部総務・記録集計・コース周辺での観客誘導整理
39	成田国際空港スカイリウムコンサート通訳ボランティア	B	2019年1月18日(金)	1	「北総四都市文化紀行 和妻 wazuma わずま in成田」における公演チラシの英語訳及び、出演者トーク時の英語通訳
40	タイ大学生モニターツアーアテンドボランティア	B	1月22日(火)・23日(水)	1	タイ人大学生との国際交流を行う。「海外大学生モニターツアー(対象国:タイ)」に参加するタイ人大学生との国際交流を行う。モニターツアー中の1泊2日でタイ人大学生をアテンド
41	中学生「東京駅伝」大会運営補助ボランティア	B	2月3日(日)	3	東京都調布市で開催される「第10回中学生「東京駅伝」大会」のコース監視員として、選手の安全走行確保及び選手への応援を行う
42	全日本テコンドー選手権大会運営補助ボランティア	B	2月16日(土)・17日(日)	4	千葉ポートアリーナで開催される「全日本テコンドー選手権大会」における大会運営補助、パラ競技補助及び試合用具管理
43	平成30年度千葉・県民音楽祭通訳ボランティア	B	3月2日(土)	2	「平成30年度千葉・県民音楽祭」における外国人用プログラムの英語訳及び外国人来場者の英語通訳
44	国際食品・飲料展FOODEX2019通訳ボランティア	B	3月5日(火)～8日(金)	2	「国際食品・飲料展 FOODEX 2019」における英語及びスペイン語通訳
45	こども歌舞伎公演チラシ翻訳ボランティア	B	3月10日(日)	2	「千葉県こども歌舞伎アカデミー こども歌舞伎公演」における公演プログラムの英語と中国語への翻訳
46	中国帰国家族を支援する会健康支援中国語通訳ボランティア	B	3月16日(日)	2	中国帰国家族の会における千葉県立保健医療大学の健康支援(血液測定、体力測定)での中国語通訳
47	NPO法人さざんかの会夢のふなっこ学習サポートボランティア	B	2018年度前期・後期	6	学校に通いたいけど通えない子供たちの学習支援
1	国際ボランティアプロジェクト	C	7～9月	11	ヨーロッパ、北中米、アジアの約30か国で建物の修復、社会福祉、環境保護など活動の分野も多岐にわたるボランティア活動
2	オセアニア環境保護ボランティア	C	7～9月	3	オーストラリア、ニュージーランドで植林や遊歩道整備などの環境保護活動
3	オセアニア幼稚園ボランティア	C	7～9月	6	オセアニアの幼稚園でティーチャアシスタント
4	アメリカボランティア	C	7～9月	2	カリフォルニア州サンフランシスコ中心部のレジデンスに滞在しながら、NPO活動支援やチャイルドケア、シニア福祉などの活動
5	アメリカボランティア(教師アシスタント)	C	7～9月	1	ユタ州ソルトレイクシティ近郊およびアリゾナ州フェニックス近郊の小学校でアメリカ人教師のアシスタント活動
6	台湾ボランティア	C	7～9月	2	他のボランティアや台湾の人々と共同生活を送りながら、水耕栽培を始めとする台湾の伝統的な農業を体験
7	オセアニア環境保護ボランティア	C	2019年1～3月	1	オーストラリア、ニュージーランドで植林や遊歩道整備などの環境保護活動
8	オセアニアチャイルドケアボランティア	C	1～3月	2	オーストラリア、ニュージーランドの一般家庭でホームステイをしながら、幼稚園・保育園でボランティア活動
9	インドネシア日本語教師アシスタント	C	1～3月	1	インドネシア人の家庭にホームステイをしながら、地元の高校/大学、幼稚園/小学校で日本語や日本文化の授業を補助するボランティア活動
10	国際ボランティアプロジェクト	C	1～3月	4	ヨーロッパ、北中米、アジアの約30か国で建物の修復、社会福祉、環境保護など活動の分野も多岐にわたるボランティア活動
11	カナダ動物NPO活動支援	C	1～3月	2	トロント・バンクーバー・ビクトリア・カルガリーの4都市の中から希望の地域を選択し、現地の家庭に滞在しながらボランティア活動
12	ホノルルフェスティバル運営ボランティア	C	3月5日(火)～13日(水)	7	ハワイホノルルで開催されるホノルルフェスティバルにおける運営補助

学内ボランティア団体の紹介



Hello Time

千葉県内の保育園や子ども園で、英語で遊ぼうの時間を担当したり、小学校での英語の時間をサポートしてきました。また更に子どもたちに英語に興味をもってもらえるように自主的にイベントの開催もしています。



Habitat for Humanity KUIS

夏と春の年2回、海外住居建築活動を途上国で行い、毎月末には啓蒙活動も兼ね、現地での建築資材購入のための募金活動や、週に1回主に国際問題についての勉強会を行っています。



DAWN×KUIS

フィリピン人女性とその子供たちを支援する学生団体です。支援するフィリピン人女性たち手作りのブックカバーなどの小物や、シャツなどの衣服をフェアトレード商品として販売しています。



神田外語大学CUP

大学キャンパス内で地域の方々から寄付品を募り、フリーマーケットを中心としたチャリティイベントを実施しています。



くいすにほんごくらぶ

日本に住む外国の方に日本語を教える活動をしています。現在はブラジル、ベトナムの学習者が多く参加しています。また、日本語を教えるだけではなく日本の文化を伝えるアクティビティも行っています。



幕張新都心賑わいづくり研究会学生部

幕張の地域の方や団体と積極的に交流し、サマーソニックの前夜祭企画を始めとして、数々のイベントを企画・運営し地域活性化につながる活動をしています。



MAKE SMILE

「被災地で笑顔を発信」をテーマに、災害復興支援ボランティア団体として、主に東日本大震災で被災された宮城県亘理町の児童館でのボランティア活動や、九州への震災・豪雨災害義援金募金活動などを行っています。



ラテンアメリカ研究会

日本の絵本をスペイン語に翻訳し、その本を寄贈する活動を行っています。JICAの方々に協力して頂き、ペルー、ボリビア、パラグアイの3カ国にある日系人学校に寄贈しています。

Volunteer Union

Volunteer Unionは、神田外語大学学友会のUnion制度（注1）として、2018年度より学内の5つのボランティア団体で結成されました。

2018年度は「第14回幕チャリ×ソラビト」でのブース出展を行い、多くの来場者に本学のボランティア団体を知って触れていただく良い機会となりました。

注1) Volunteer Unionの他、Athlete Union(体育系の団体)、Culture Union(文化系の団体)がある。

Volunteer Union 構成団体

Habitat for Humanity KUIS

Hello Time

MAKE SMILE

DAWN KUIS

ラテンアメリカ研究会

次年度に向けての意気込み



Habitat for Humanity KUIS所属
イペロアメリカ言語学科スペイン語専攻・2年(当時)

代表 **水戸ひとみ**

私たちVolunteer Unionは学内の5つのボランティア団体で構成され、各所属団体の活動をより活性化することを目的としています。そして、1人でも多くの神田外語生が自分なりの形でボランティアに参加できるように活動しています。

2018年度は幕チャリ×ソラビトにて、来場者に団体の様々な活動を紹介するブースを設けました。ブースに立ち寄ってくれた来場者の中には神田外語大学に進学を希望する高校生もいて、団体に所属する学生たちのボランティア経験やそれによって得たものについて、熱心に耳を傾けてくれました。

また、各所属団体の特徴をわかりやすく把握してもらうために、パンフレットを作成しました。これによって「ボランティアに興味があるけど何から始めたらいいかわからない…」という学生たちの一助になればと考えています。

Unionとしての組織はまだ動き始めたばかりで試行錯誤しながらの面が多々ありますが、より良いボランティア経験をより多くの学生に得てもらうため、Volunteer Unionのメンバー一同誠心誠意活動に励んで参ります。

ボランティア情報の発信

ボランティア登録

2014年度にボランティア登録制度を導入し、2018年度は676名の学生が登録をしました。ボランティア活動をより多くの学生に経験してもらうため、ボランティアに興味関心のある学生情報のデータベース化を図り、より効果的にボランティアの募集を行いました。登録者には、ボランティア活動を促進する目的として、学内外で実施するセミナー、イベント、講座等の情報を定期的に「ボラセンINFO」としてメールマガジンで配信しています。

ボランティアセンターホームページ／スポーツ通訳ボランティア推進室ホームページ

ボランティアセンターホームページおよびスポーツ通訳ボランティア推進室のホームページにて、最新情報を更新しています。

URL

ボランティアセンターホームページ <http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/labo/vc/>

スポーツ通訳ボランティア推進室ホームページ <http://sports-volunteer.tokyo/>



▲ボランティアセンターホームページ



▲スポーツ通訳ボランティア推進室ホームページ

協力・関連団体

幕張新都心賑わいづくり研究会 <http://www.makuhari-nigiwai.com/>

幕張新都心周辺の企業・行政・教育機関・地元自治会、商店会が連携し幕張新都心の活性化と賑わい創出に取り組む研究会。

国際教育交換協議会 <http://www.cieej.or.jp/>

アメリカに本部を持つ非営利教育団体。「TOEFLテスト日本事務局」としてTOEFLテスト公式情報を発信し、国際ボランティアプロジェクトを始めとする海外ボランティアを主催する団体。

特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21) <http://www.acc21.org/>

アジアの現地NGO団体との幅広いネットワークを基盤に、アジアの貧困削減の実現に向け活動する団体。

公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) <http://www.acc21.org/act/>

アジアの発展途上国の人々の自立と発展を支援する公益信託。

日本財団学生ボランティアセンター (GAKUVO) <http://gakuvo.jp/>

学生ボランティアの育成を目的に2010年に設立され、災害地へのボランティア派遣や学生団体向けの助成金制度の運営などを行っている団体。

旧嵯峨御所 大本山 大覚寺 <https://www.daikakuji.or.jp/>

嵯峨天皇の離宮として建立されて1200年以上、絶えず歩みつづけてきた由緒あるお寺。弘法大師空海を宗祖と仰ぐ真言宗大覚寺派の本山。正式には旧嵯峨御所大本山大覚寺と称し、嵯峨御所とも呼ばれる。

神田外語大学ボランティアセンター報告書

発 行 2019年7月

発行者 神田外語大学ボランティアセンター

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1 6号館2階

TEL : 043-273-1337

Email : volunteer-center@kanda.kuis.ac.jp

ホームページ : <http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/labo/vc>

印刷 勝美印刷



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C006270



この印刷製品
は、環境に配慮
した資材と工場
で製造されて
います。